

セキュリティ確保とアカウント統合

大分大学(旧)と大分医科大学は2003年に統合され、大分大学として現在に至っている。組織の再編に伴い、それぞれの情報基盤も全面的な統合されることになった。

大分大学の情報基盤

組織改変により、旦野原の本学キャンパス「情報基盤センター」と、狭間キャンパス「医学情報センター」の2拠点間におけるネットワークが整備された。これと同時に、学生、教職員のアカウントは統合され共用サービスも開始されている。アカウントの一元管理、共用サービスの整備を実現することにより、情報基盤整備のコスト低減、各種管理業務の省力化を図ると共に、情報セキュリティ面でのリスク管理が徹底して行われている。

潜在するリスクと対策

アカウント統合以前から質の高い情報セキュリティマネジメントが求められていた。医学情報センターでは学内の情報リソースと病院情報を総合的に管理運用しているためである。着々と進められた情報基盤の整備は、異なるシステムやサービスの混在する複雑な学内ネットワークのアカウントを統合し今日に至っている。

厳格なアクセス管理

アカウント統合により、様々なセキュリティマネジメントが実施されている。学内ネットワークにアクセスする機器(サーバ、PC、周辺機器等)はすべてアカウント情報と連動して稼働している。『アカウントマスター forLDAP』にMACアドレス(機器固有の番号)を事前登録し、厳格なアクセス制限を行なうことでセキュリティを確保するというものだ。

アカウントと入室管理

アクセス管理の観点からアカウントと連動した入室管理システムも導入されている。ICカード、非接触認証装置に対応した携帯電話やスマートフォンにより、学生の入室を管理するこのシステムは、対象となる部屋に入室することで学習システムの認証が実施され、室内のPCが使用可能な状態になるというものだ。従来、学生に開放するPCは設置した部屋自体の開放時間を管理したり、使用者を特定するためのシステムを別途用意したりするなど手間とコストが必要だったが、この入室管理システムを導入することで、学生のIDそのものが入室の鍵となり、同時にシステムの鍵にもなる。使用状況は逐一ログとして残るため、万一不正な行為が行われたとしても追跡が容易であり、総合的な管理体制を構築することが可能となった。

事業者から好評

これら情報基盤の整備は、富士通株式会社九州支社が事業者として構築したものである。『アカウントマスター forLDAP』は既存のネットワークに対する親和性の高さが評価され、アカウント統合の中核的なシステムとして組み込まれている。

『アカウントマスター forLDAP』の日常的な管理業務はWEBブラウザでのみの操作となるため、管理作業の効率化が図られ、管理担当部門、管理者の負担を大幅に低減することが可能となるのも同社に高く評価された点である。

DATA (2011年5月)

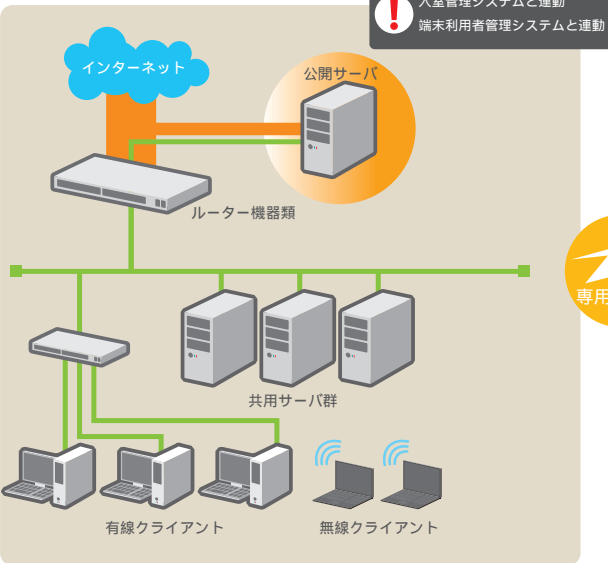
学部数: 4学部

学生数: 5,770人

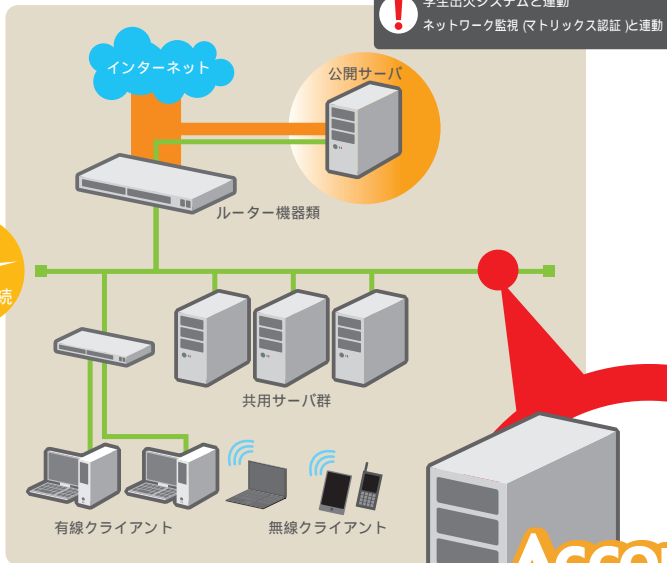
キャンパス数: 3

S事業者: 富士通株式会社九州支社

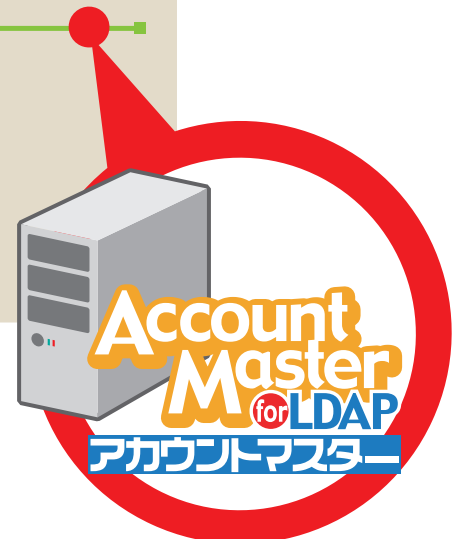
旦野原キャンパス



狭間キャンパス



『アカウントマスター forLDAP』には、両キャンパスのすべてのアカウント情報が登録されています。ネットワーク内の各種サービスに認証機能を提供しています。また、ネットワークに接続される機器のMACアドレスもすべて『アカウントマスター forLDAP』に登録されていて、厳格なセキュリティを提供しています。アカウントの更新、削除などのメンテナンスは『アカウントマスター forLDAP』内の情報をWEBブラウザで書き換えるだけで実施できます。



長崎大学

統合アカウントと利便性の追求

長崎市内3地区にキャンパスを展開し、9千名以上の学生が学ぶ長崎大学。平地が少ないという地理的な条件から3箇所にキャンパスが分かれている状況の中で利便性の追及、データ管理、運用の効率向上を目的に、情報リソースの管理体制を情報基盤センター(事務局学術情報企画課)に集約、一元管理体制を実現している。

情報基盤の統合化へ

情報基盤が一元的に集約されるまで、サービス、システムは個別に稼動していた。連動させるにもエクスポート、インポート作業が発生するなど、各システムに対する専門知識が必要となっていた。また、利用者は複数のシステムでアカウントを作成するので、複数のIDと認証用パスワードを持っていた。このような状況は運用コストの増大、管理の煩雑さにつながり問題となっていたが、システムを統合し、アカウントを一元管理

することによって諸問題は解決されるようになった。管理側の窓口は一本化され、全学生、教職員に統合化されたIDが発給された。その結果、様々な部分で省力化されると同時に、コスト低減が図られ、サービスは拡張して提供されることになり利便性の大幅な向上につながった。

統合化のメリット

教職員の人事、給与系のシステムや教務事務系のシステムも統合化された。統合アカウントによる連動処理が可能となったことから、各種事務手続きを利用者に対してオンラインで提供できる環境が整った。オンライン上で行った手続きは、すべてリアルタイムで処理されるため、これまでの申請書類の受領処理のような手続きが一切排除された。学生の場合、学籍情報とアカウント情報が完全に対応しているため、学務手続きや成績の参照などをWEBで実行でき、事

務手続き全般が省略でき、スピード化が図られた。さらに掲示板やスケジュール参照などの基本的なコミュニケーションツールも、安全に運用できるようになっている。

シングルサインオンの実現

利便性の点では、ポータルサイトからのログインで、承認されたサービスのすべてが利用可能となる「シングルサインオン」環境の提供は大きい。学生においても利用できるサービスが多数に及ぶため、シングルサインオンによって各サービスを再ログインの必要なく、シームレスで利用できる利点は大きい。例えば、学習システムで端末にアプリケーションを供給するためのADサーバの認証も、個別に行う必要はなく、シングルサインオン環境でシームレスに稼動する。

事業者から好評

これら情報基盤の整備は、富士通株式会社九州支社が事業者として構築したものである。『アカウントマスター forLDAP』は、既存ネットワークに対する親和性の高さが評価され、アカウントの統合認証システムに組み込まれている。

『アカウントマスター forLDAP』の日常的な管理業務はWEBブラウザでのみの操作となるため、管理作業の効率化が図られ、管理担当部門、管理者の負担を大幅に低減することが可能となるのも同様に高く評価された点である。

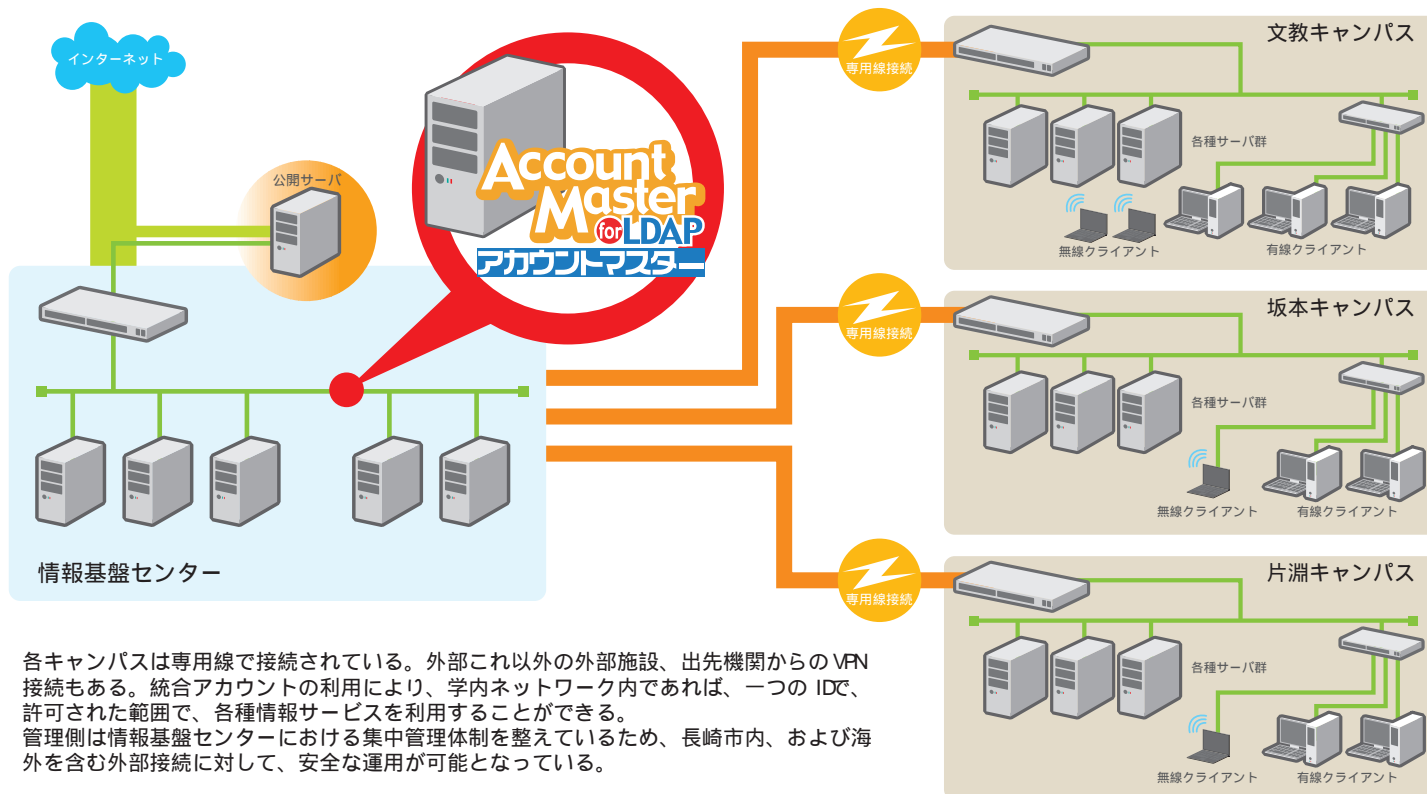
DATA (2011年5月)

学部数: 8学部

学生数: 7,674人

キャンパス数: 3

S事業者: 富士通株式会社九州支社



各キャンパスは専用線で接続されている。外部これ以外の外部施設、出先機関からのVPN接続もある。統合アカウントの利用により、学内ネットワーク内であれば、一つのIDで、許可された範囲で、各種情報サービスを利用することができる。管理側は情報基盤センターにおける集中管理体制を整えているため、長崎市内、および海外を含む外部接続に対して、安全な運用が可能となっている。